

1 市 勢

(1) 都市の沿革

■江戸時代以前の高知

現在の市域は、10世紀のころ、浦戸湾の浅海で、洞ヶ島、比島、葛島、竹島、田辺島、大島（五台山）などは湾内に浮かぶ小島で、935（承平5）年に紀貫之が編さんした土佐日記にも、今は陸地となっている“大津泊地”からの舟出のことが記述されています。

まちの誕生は、戦国時代末1574（天正2）年、土佐を統一した長宗我部元親による「大高坂城」に始まります。しかし、たび重なる潮江川（のちの鏡川）の洪水に悩まされ、城は1591（天正19）年に浦戸に移されました。

■江戸時代の高知

現在の本市の中心市街地のまちなみの基礎といえる計画的な城下町づくりを行ったのは、1603（慶長8）年土佐国守として高知城に入城した遠州掛川城主山内一豊でした。一豊は、高知城下町を構想するにあたり周囲の郷村との区別を堀や堤防で明確に区分する近世の典型的な都市計画を考えました。それは、新しい領主の治政上の権威をみせるためと同時に、水防の役割を果たすためのものでした。

江戸時代の城下町建設にあたって、高知の町は城を中心とする郭中と東の下町、西の上町と大きく分けられ、以後町域は拡大していきました。

■明治時代の高知

明治維新（1868年）によりわが国に近代国家が成立すると、城下町は高知市（明治22年4月）となり、郭中と下町・上町との境界がなくなり、武士の多くが東京などへ移住しました。中心商店街は次第に西の帯屋町の方へ移動し、下町の方も市街がさらに東へ延びました。

また、1894（明治27）年に多度津から松山まで四国街道（国道32・33号）が開通し、貨客バスが通うようになりました。



図 浦戸湾古代之図(承平4年:934年)
(高知県立図書館所蔵)



図 高知郭中絵図(慶安5年:1652年)
(高知市民図書館所蔵)



図 高知市街全図(明治11年:1878年)
(高知市民図書館所蔵)

■大正・昭和時代の高知

大正時代になると、産業は、海運を利用したセメント・石灰・製材・製紙・製糸・鯉節・珊瑚加工などの地場産業が興り、さらに県営平山発電所1909(明治42)年により近代産業が誘発されました。

大正から昭和の初めにかけて、街は活況を呈し、特に四ツ橋から種崎町・浦戸町・堺町・京町・新京橋界隈は大いに栄えました。

1935(昭和10)年には待望の国有鉄道土讃線が開通し、これを機会に高知駅前からはりまや橋方面への幹線道路ができ、中心市街は、東西方向のみの形態から南北方向との十字型に変化しました。

1945(昭和20)年7月の大空襲により、中心部の建物の大半(420ha)は焼失しましたが、高知城の建物は焼失を免れました。また、翌年12月の南海地震では1.2mの地盤沈下と津波により建物の倒壊や浸水の被害を受けました。

その後、市民と行政の復興へのめざましい取り組みによって、高知県の中核都市として発展しました。



図 高知市街地図(昭和4年:1929年)
(高知市民図書館所蔵)

■平成・令和時代の高知

高速道路の市内乗り入れ、高知新港の一部供用開始など、高度開放化時代への幕開けとなり、1998(平成10)年には四国初の中核市に移行しました。また、1998(平成10)年9月の集中豪雨災害では、東部地区一体が広範囲に浸水するとともに、市街化区域縁辺部の山際で129ヶ所の崖崩れが発生し、市街地の外延的拡大を抑制するきっかけとなりました。

2008(平成20)年には、JR土讃線連続立体交差事業並びに弥右衛門、潮江西部及び高知駅周辺の3土地区画整理事業が概成するなど、南北交通の円滑化や都市機能の向上に努めてきました。

さらに、2021(令和3)年には、東部自動車道のうち高知南国道路が全線開通し、広域的なネットワークの強化が図られました。

現在、鏡・土佐山村、春野町との合併などによって県人口の約47%が集中する都市となっており、市域を構成する都市部、田園地域、中山間地域が持つ多様な特性を活かした、バランスのとれた発展を目指しています。

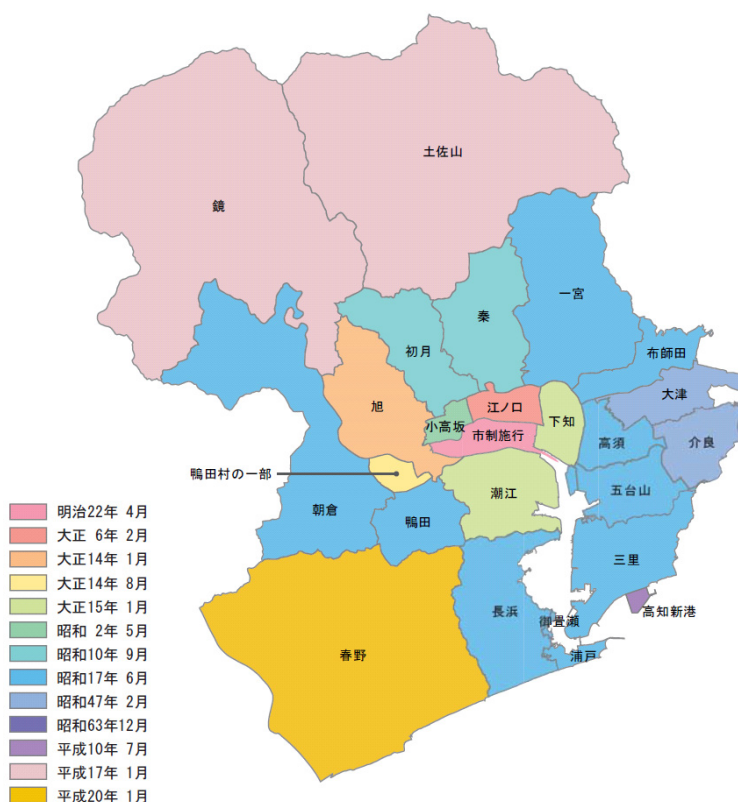


図 高知市 WebGIS 航空写真
(令和2年:2020年)

(2) 市域の変遷

本市は 1889 (明治 22) 年に市制を施行し、その後の町村合併を経て現在に至ります。

編入年月日	編入地域等	面積 (k m ²)		人口 (人)	
		編入地域	累計	編入地域	累計
1889(明治 22)年 4 月 1 日	市制施行	—	2. 810	—	21, 823
1917(大正 6)年 3 月 15 日	江ノ口町	2. 962	5. 772	3, 597	43, 220
1925(大正 14)年 1 月 1 日	旭村	10. 737	16. 509	7, 861	62, 998
1925(大正 14)年 8 月 1 日	鴨田村の一部	0. 317	16. 826	2, 950	65, 948
1926(大正 15)年 1 月 25 日	下知町, 潮江村	12. 893	29. 719	13, 200	78, 225
1927(昭和 2)年 5 月 1 日	小高坂村	0. 912	30. 631	4, 954	87, 173
1935(昭和 10)年 9 月 1 日	秦, 初月村	18. 660	49. 291	3, 349	108, 869
1942(昭和 17)年 6 月 1 日	長浜町, 御畳瀬, 高須, 一宮, 浦戸, 三里, 五台山, 布師田, 朝倉, 鴨田村	86. 060	135. 351	33, 894	141, 094
	S45. 10. 1 国土地理院面積調を基に修正	—	133. 120	—	—
1972(昭和 47)年 2 月 1 日	大津, 介良村	10. 000	143. 120	8, 309	256, 801
	S50. 10. 1 国土地理院面積調を基に修正	—	143. 235	—	—
	S63. 10. 1 国土地理院面積調を基に修正	—	144. 520	—	—
1988(昭和 63)年 12 月 1 日	南国市の一部 (潮見台の一部)	0. 159	144. 68	—	—
1997(平成 9)年 10 月 13 日	三里 (公有水面埋立 高知新港)	0. 013	144. 69	—	—
1998(平成 10)年 7 月 17 日	三里 (公有水面埋立 高知新港)	0. 258	144. 95	—	—
2001(平成 13)年 10 月 30 日	三里 (公有水面埋立 高知新港)	0. 02	144. 97	—	—
2004(平成 16)年 2 月 3 日	三里 (公有水面埋立 高知新港)	0. 03	145. 00	—	—
2005(平成 17)年 1 月 1 日	鏡村, 土佐山村	119. 28	264. 28	2, 909	330, 705
2008(平成 20)年 1 月 1 日	春野町	44. 94	309. 22	16, 512	343, 199
	H26. 10. 1 国土地理院面積調を基に修正	—	308. 99	—	—
	H28. 10. 1 国土地理院面積調を基に修正	—	309. 00	—	—



(3) 地 勢

本市は四国南部のほぼ中央に位置し、市の北部には急峻な四国山地があり、標高 1,176 mの工石山を有する山地が東西に連なっています。また、南部では丘陵地帯が浦戸湾を挟んで東西に連なっています。これらの山地、丘陵部は市の西端部でつながり、三方を山地、丘陵部に囲まれた形で高知平野が開けています。

経緯度		最長距離		面積
東経	北緯	東西	南北	
133 度 31 分 53 秒	33 度 33 分 32 秒	21.49km	24.83km	309.00k m ²

(4) 気 候

本市は年間を通じて降水量が多く、特に夏から秋にかけては台風の進路に当たることから、年によっては 3,000mm を超す有数の降水量があります。また、年間 2,000 時間を超える日照時間は、都道府県庁所在都市で上位に位置しています。

年平均気温については、都道府県庁所在都市の平均値と比較して 1~2 度ほど高く、総じて温暖です。なお、戦後は全国的に気温が上昇傾向にあり、本市の年平均気温も 2 度以上上昇しています。

	平均気温 (°C)	降水量 (mm)	日照時間 (h)
2008(平成 20)年	17.3 (15.5)	2230.5 (1545.5)	2182.7 (1921.9)
2009(平成 21)年	17.5 (15.6)	2062.5 (1552.3)	2137.4 (1862.9)
2010(平成 22)年	17.6 (15.8)	3093.0 (1813.2)	2118.4 (1871.3)
2011(平成 23)年	17.2 (15.4)	2686.0 (1734.6)	2126.3 (1924.1)
2012(平成 24)年	16.8 (15.2)	2985.0 (1702.2)	2066.4 (1923.8)
2013(平成 25)年	17.3 (15.2)	2327.0 (1736.4)	2372.9 (1926.6)
2014(平成 26)年	17.0 (15.6)	3658.5 (1715.0)	2095.0 (2075.1)
2015(平成 27)年	17.5 (15.3)	2966.5 (1756.3)	2098.4 (1977.5)
2016(平成 28)年	18.1 (15.9)	2823.0 (1775.1)	2096.7 (1924.3)
2017(平成 29)年	17.1 (15.2)	2022.0 (1821.7)	2218.3 (1921.2)
2018(平成 30)年	17.4 (15.4)	3092.5 (1702.2)	2265.0 (2003.7)
2019(平成 31)年	17.8 (-)	2538.5 (-)	2134.7 (-)

※ () は全国都道府県庁所在都市の平均値

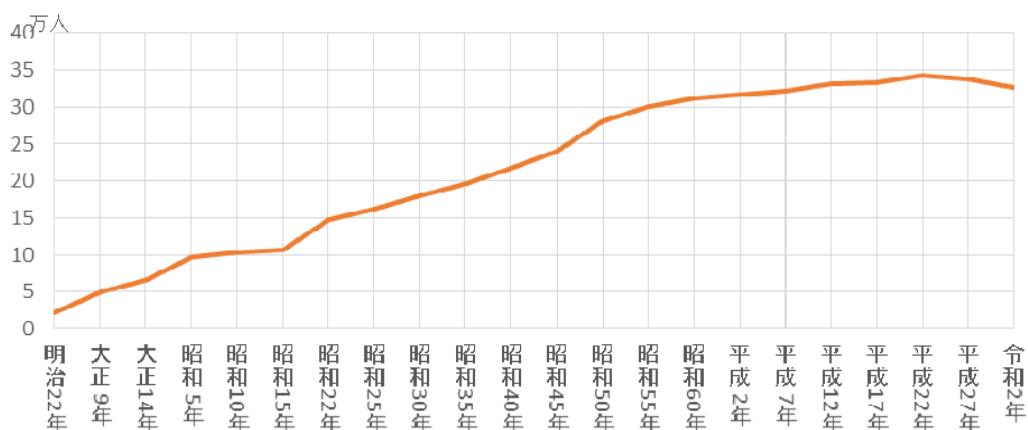
(資料：気象庁 HP)

(5) 人口の変遷

年次	人口 (人)	世帯数 (世帯)	面積 (k m ²)	人口密度 (人/k m ²)	DID 人口 (人)	DID 面積 (k m ²)	DID 人口密度 (人/k m ²)	摘要
明治 22 年	21,823	5,456	2.80	7,794	—	—	—	市制施行時
大正 9 年	49,329	11,280	5.76	8,564	—	—	—	第 1 回国勢調査
大正 14 年	65,723	15,162	16.82	3,907	—	—	—	第 2 回国勢調査
昭和 5 年	96,988	22,265	30.63	3,166	—	—	—	第 3 回国勢調査
昭和 10 年	103,405	23,784	49.29	2,098	—	—	—	第 4 回国勢調査
昭和 15 年	106,644	25,450	49.29	2,164	—	—	—	第 5 回国勢調査
昭和 22 年	147,120	34,513	135.35	1,087	—	—	—	第 6 回国勢調査
昭和 25 年	161,640	39,343	135.35	1,194	—	—	—	第 7 回国勢調査
昭和 30 年	180,146	44,773	135.35	1,331	—	—	—	第 8 回国勢調査
昭和 35 年	196,288	54,447	135.35	1,450	136,845	13.50	10,137	第 9 回国勢調査
昭和 40 年	217,889	66,676	135.35	1,610	157,349	15.60	10,086	第 10 回国勢調査
昭和 45 年	240,481	80,201	135.12	1,806	180,658	20.80	8,685	第 11 回国勢調査
昭和 50 年	280,962	97,469	143.23	1,962	206,836	26.00	7,955	第 12 回国勢調査
昭和 55 年	300,822	108,346	143.23	2,100	237,300	33.50	7,084	第 13 回国勢調査
昭和 60 年	312,241	113,937	143.23	2,180	244,230	35.30	6,919	第 14 回国勢調査
平成 2 年	317,069	121,022	144.68	2,192	259,587	41.10	6,316	第 15 回国勢調査
平成 7 年	321,999	129,298	144.68	2,226	271,827	43.00	6,322	第 16 回国勢調査
平成 12 年	330,654	139,997	144.95	2,281	277,948	43.70	6,360	第 17 回国勢調査
平成 17 年	333,484	143,609	264.28	1,262	281,914	44.34	6,358	第 18 回国勢調査
平成 22 年	343,393	150,857	309.22	1,111	276,087	44.54	6,199	第 19 回国勢調査
平成 27 年	337,190	153,594	308.99	1,901	271,698	44.38	6,122	第 20 回国勢調査
令和 2 年	326,545	154,171	309.00	1,057	266,025	44.56	5,970	第 21 回国勢調査

※DID：人口集中地区

高知市の人口推移



DID 面積及び DID 人口推移

